

Ⅱ 調査結果

2. 1 暮らしについて

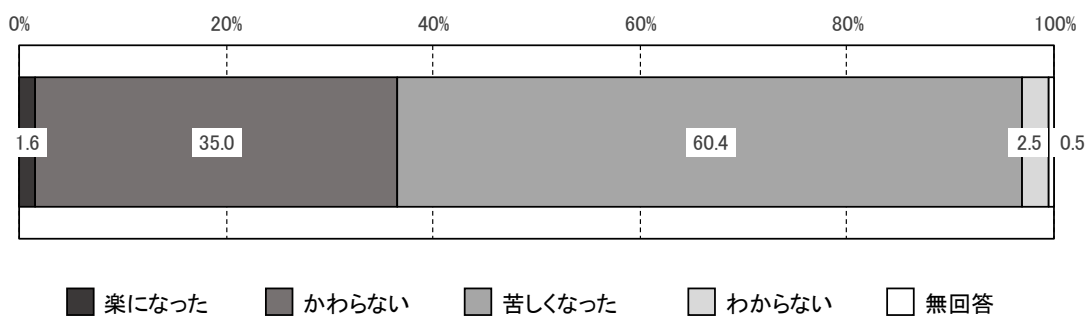
問1 暮らしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭の暮らし向き(家計など)は、去年の今頃と比べてどうですか。
(1つだけ)

全体(図1-1)で見ると、「苦しくなった」が60.4%と最も高く、次いで「かわらない」(35.0%)、「わからない」(2.5%)、「楽になった」(1.6%)の順となっている。

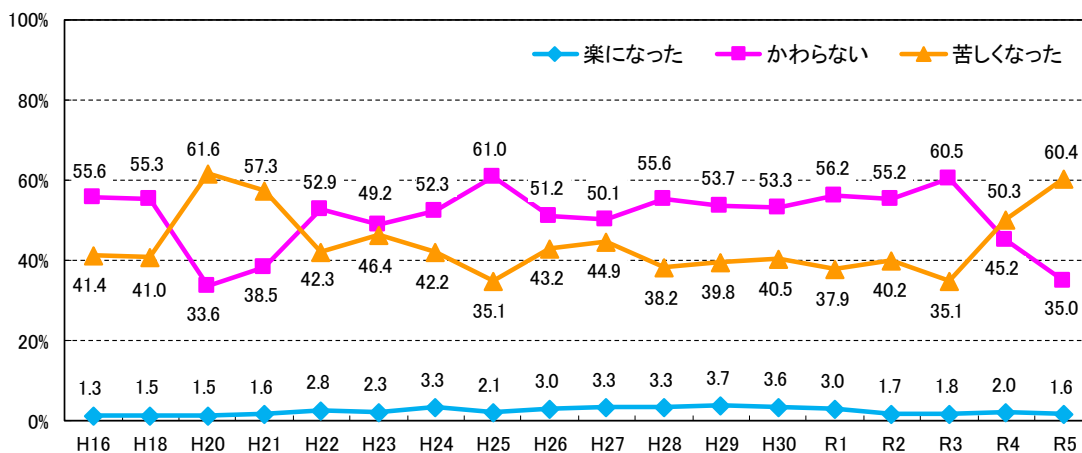
図1-1 暮らしの前年比較

回答者数(n=1,758)



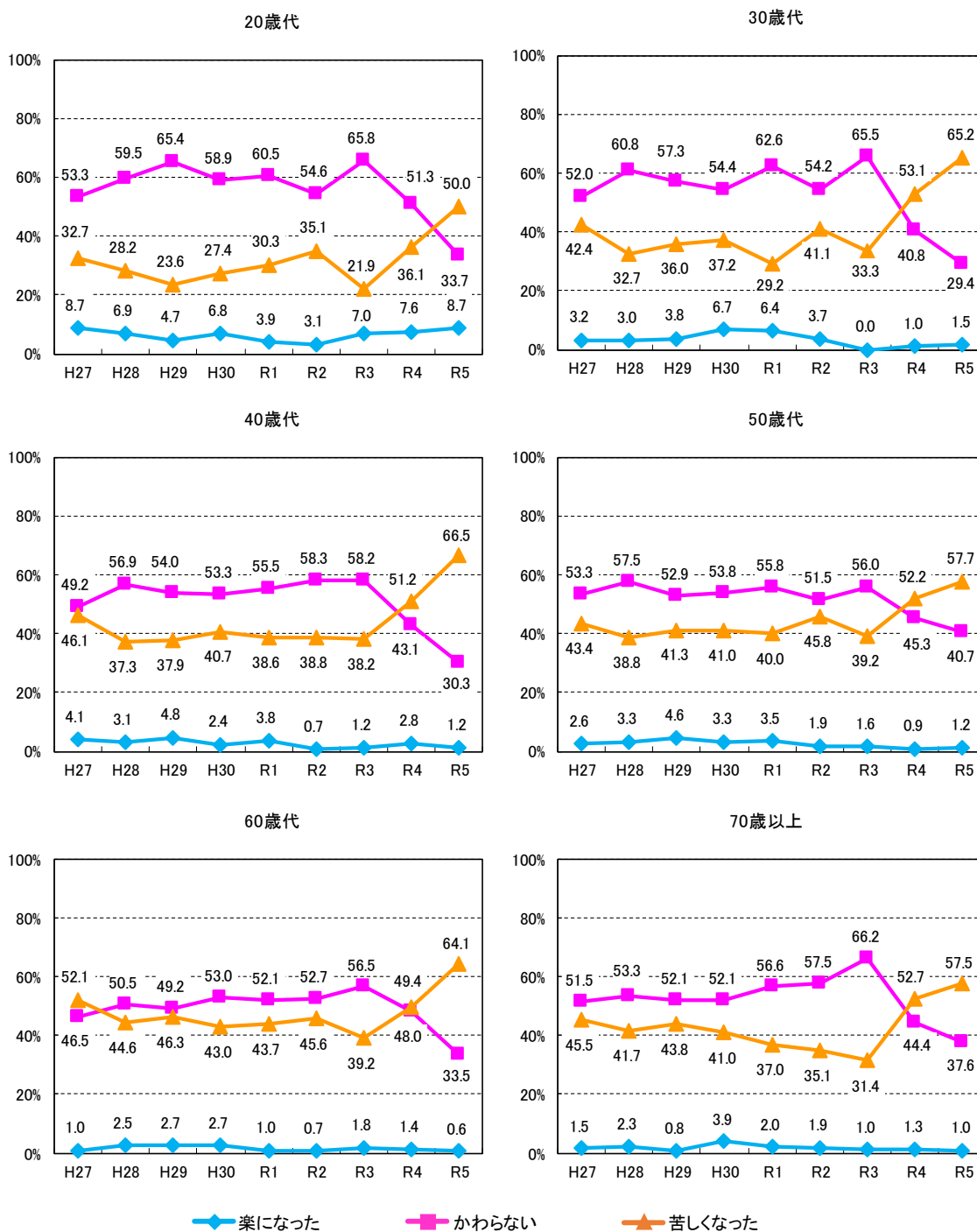
経年変化(図1-2)で見ると、平成22年から令和3年までは一貫して「かわらない」が最も高くなっていたが、令和4年から「苦しくなった」が「かわらない」を上回り、令和5年では、令和4年より「かわらない」が10.2ポイント減少し、「苦しくなった」が10.1ポイント増加している。

図1-2 【経年変化】暮らしの前年比較



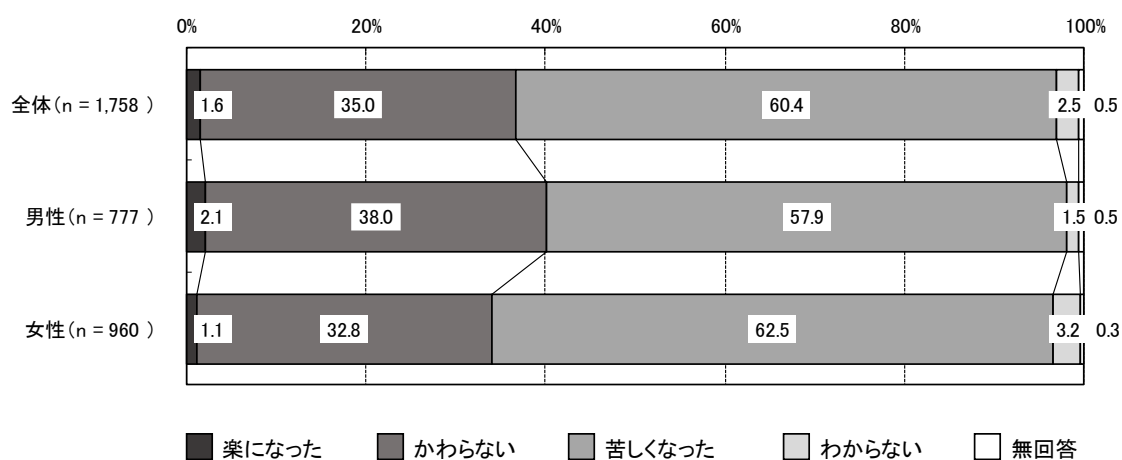
年代別の経年変化（図 1-3）でみると、令和 5 年では令和 4 年と同じく、いずれの年代においても「苦しくなった」が増加しており、そのうち 40 歳代が 15.3 ポイントと最も増加幅が大きい。一方、「かわらない」は、いずれの年代においても減少している。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



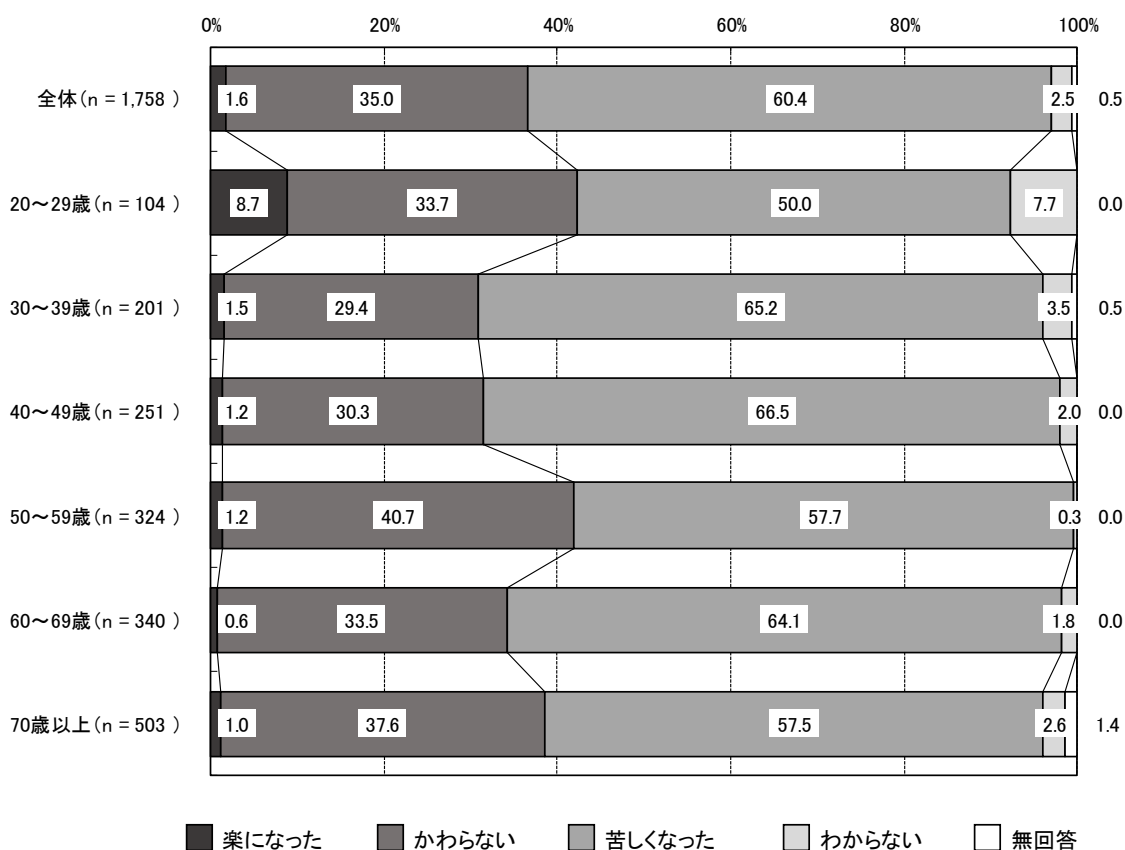
性別（図 1-4）で見ると、男女ともに「苦しくなった」が最も高く、男性が 57.9%、女性が 62.5%となっており、女性が男性より 4.6 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



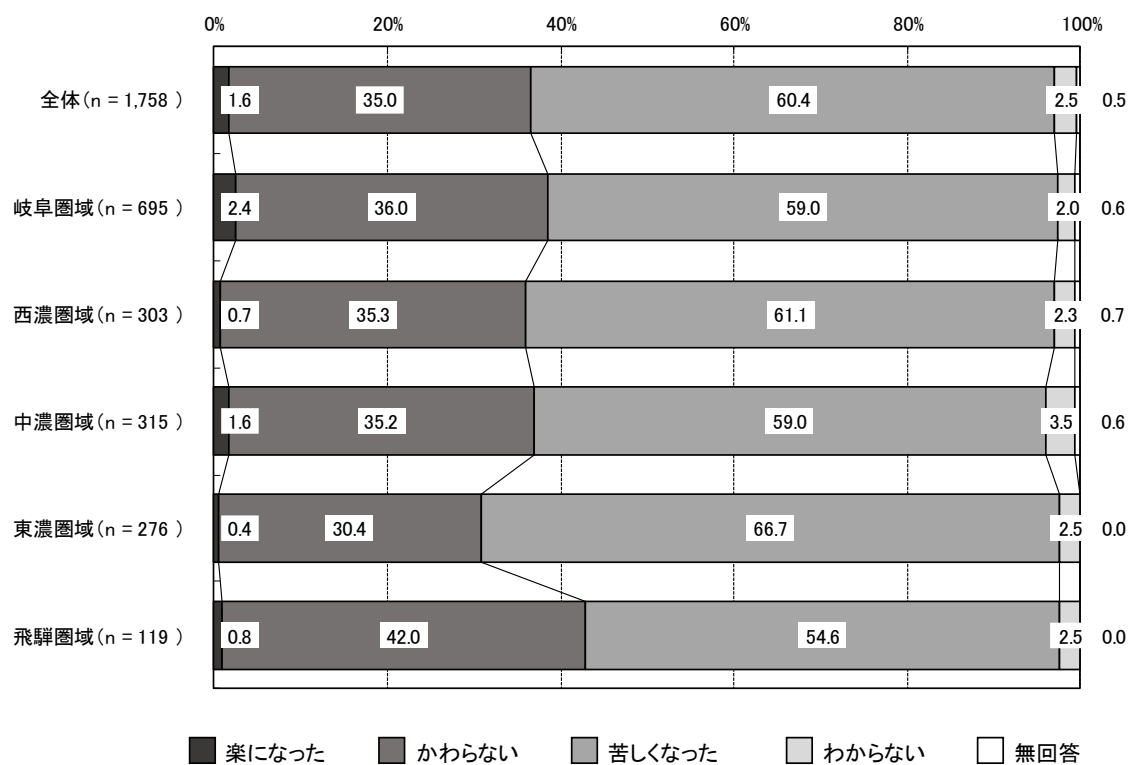
年代別（図 1-5）で見ると、いずれの年代においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち 40 歳代が 66.5%と最も高くなっている。一方、「楽になった」は、20 歳代が 8.7%と最も高くなっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



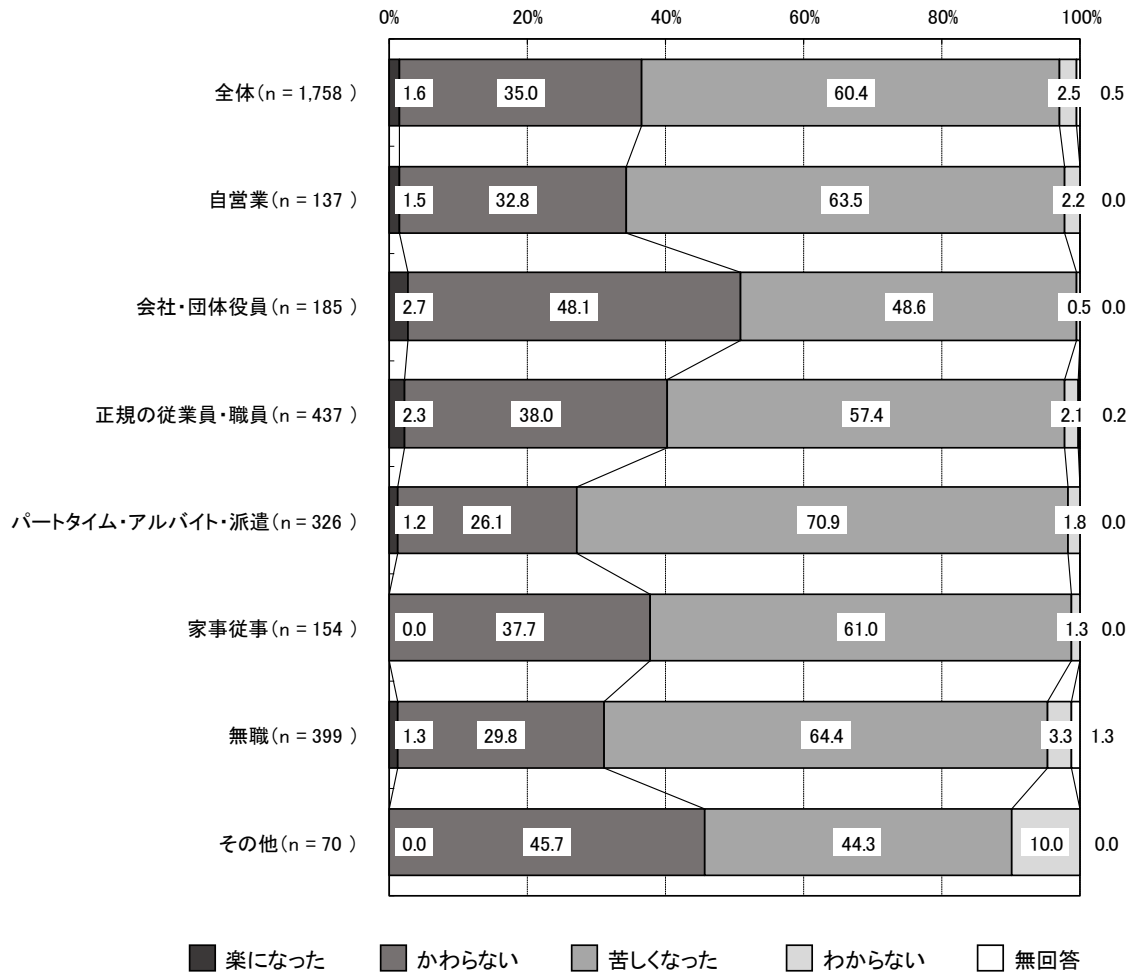
居住圏域別（図 1-6）で見ると、いずれの圏域においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち東濃圏域が 66.7%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）で見ると、「その他」を除くいずれの職業においても「苦しくなった」が最も高く、パートタイム・アルバイト・派遣では 70.9%と最も高くなっている。「その他」では「かわらない」が最も高くなっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む。